

日比谷公園で地震にあつて

青木やすし

震災当日。午前中環境省交渉。昼、日比谷公園内のカフェテラスで皆と食事。2時頃皆が帰った後、メモの最中に地震にあつ。周期が長いので震源地は遠くだろうと思ったが、揺れかたが半端でなく店の外に。公園に子供連れで来ていた人は、子供と一緒に道路に這いつくばっている。地面が大きく揺れ慌てて公園内の大木にしがみつ。自分の人生の中でも最大の地震だ。一緒にひとつの木にしがみついた男性が持っていたラジオで宮城沖が震源地だと知る。

東京でこれだけの揺れなので、現地では津波が大変だと思ったが、とりあえず震源地が遠いと、店に戻ったが再び大きな揺れがあり、店の外に。今度は、店の外に出ると、周辺の官庁ビルなどの高層ビルから避難してきた多くの人が集まっていた。

最初の揺れで、エレベーターもストップし、高層階にいた人が、命からがら逃げてきたのだろう。何度も大きな揺れが続き、水溜まりの水がピチャピチャ音をたてている。誰かが厚労省のビルが揺れていると叫ぶのか聞こえる。確かに揺れている。その頃には日比谷公園は周りのビルから命からがら避難していた人で一杯になっていた。

約1時間ぐらい立ったところで、集まっていた人たちがビルに戻り始めた。

4時近くになったせいで外も寒くなってきた。職場に戻るのが気になる人たちで、カフェテラスが一杯だった。さっき店から逃げ出したとき、テーブルに忘れ物をしていたので、自分の席は、確保できた。隣の人たちと今後どうすれば良いかなど雑談した。

地下鉄は、止まっているという。国立で夕方約束があつたが、連絡が取れない。地震直後から携帯は通じない。以前阪神淡路大震災の時には、和歌山にいたが、固定電話が通じなくなったが今度はどうか？携帯のメールと固定電話は通じるようだ。

携帯は朝から使っていて、充電を催促する残りが少ない表示がされていた。とりあえず、情報の入手が大切と新橋のドコモに向かってみる。外に出ると公園入り口の公衆電話は、長蛇の列になっていた。

ドコモに行く途中で、ビルの中を覗くと、公衆電話に並んでいるのが、3~4人だった。入って行って、並んで約束の当事者の会社に電話したが、誰も出なかったため、本人の携帯に連絡した。不思議と連絡が取れた。自分の状況を話し、たぶんJRもすべての交通機関がストップしているからとても国立にはいけないことを話した。なぜあなたの携帯には、連絡が取れたのかを聞いたところ「au」は何回か通話しているうちに通じるよだと話していた。

ドコモに向かう途中で、歩道は行き交う人で溢れていた。ドコモの店内も、充電にやって来た人で溢れていた。充電器は満杯で、電池が古くなっていたので、買い換えることにしたが、買い換えた電池もフル充電されていないという。結局充電器で充電することにした。店の中の人と一緒にTvで地震情報をみる。かつてない巨大な地震だったことが報道されていた。JRだけでなく私鉄も全線止まっているのを知った。

もう夕方17時を過ぎていた。そのとき店長が出てきて18時には閉店すると言う。18時が閉店だから通常通りに締めると言う。一瞬、こんな緊急事態に平常通り店を閉めるとは何を考えているかと思った。行き場を失った人が、唯一頼れるのは情報だけだ。都内に働いていた人で、保育の迎えや帰宅方法など緊急対応をとらなければならないことがある。交通手段がなくなった中で、情報は一番大切なライフラインだ。

人を掻き分けながら店長を追いかけ、百年に1度の緊急事態の中で、携帯電話の役割の大切さを考えたとき、店の開店時間を延長し、働いている人の中で、何人か残れる人だけでも残って、携帯の充電ができるようにできないか？と言ったが「はいおっしゃる通りです」と笑いながら答えている。やる気がなさそうなので、上に相談しても延長できないかという、上に相談した決定だという。産業社会の中の自分たちの担う役割を自覚していない。

充電を待つ間に、お金を少し下ろし、コンビニに食料調達に行つたが、パン類はほとんど売り切れていた。残っていた最後のカステラを1包み購入した。

カフェテラスに戻り、電車の復旧をまつことにした。動きようがない人が大勢残っていたが、18時を過ぎていたが、ここでは、食事を出していた。入り口の表示では、18時に閉店とある。聞いてみると寒い中行くところのないお客さんのために、店を開け食事も出すという。ここでは当たり前なのが、行われていた。

しばらく様子を見たが、事態は動きそうにない。タクシーなどもぜんぜん拾えない状況だという。道路の車列は、1方向はぜんぜん動かない。

時刻も19時になった。西武線が復旧したときの事を考え新宿まで移動しておくことにした。私鉄の復旧があつても、これまでの経験からJRはだぶん復旧に時間がかかるだろう。地下鉄は問題が地震だけに復旧に時間がかかりそう。誰かの話として、線路上を歩いて点検しているという。

日比谷公園から新宿までの道順はまったく分からなかつたので、最初は、大きな方向を聞きながら歩き始めた。寒さが一段と厳しくなつたが、当日帽子を被っていたので役に立った。警察官やガソリンスタンドの店員、行き交う人にそのつど道を聞いたりしながら赤坂見附の駅を過ぎる頃になると、なんとなく新宿に向かう人たちの流れが、行列のようにでき始めた。

これだけ一緒に歩く人数が多いと災害にあつて、帰宅できるかどうかの不安を抱えていることさえ忘れてしまった。四谷付近の交差点を渡ると広い道では、30人ぐらいの列になり、路は混雑で溢れていた。道々の商店街の飲食店やビジネスホテルは、人で満杯になっている。私鉄が復旧するまでの時間つぶしということなのか？

トイレを借りるために、コンビニに入り、店長らしき店員にトイレの許可をもらうと良いですよといって指をさす。見ると10人以上の人が並んでいた。待つ気はなかった。その後何軒かのコンビニを見ると、なるほどどこも店内に同様の列ができています。これは女性が大変だと思い、裏道の方に抜け、適当な空き地を見つけて、周りを気にしながら立ち小便をした。

結局2時間弱かかって新宿に着いた。21時。どうせまだ電車は動いていないだろうと考え喫茶店に入った。歩いている途中で「家族は全員無事」「お父さんは大丈夫か」と娘からメールが入っていたので、日比谷公園から歩いて新宿に着いたと返事を返した。職場でメールを受けた娘は、親父が、震災時日比谷公園にいたことを同僚たちに話すと皆が笑っているという。「なぜお父さんが日比谷公園にいたのか？」娘も答えられなかったという。

10時の閉店で、西武新宿駅に行くホームには入れるという。電車が動いているかを聞くと動いていないという。寒い中で何時動くかも分からない電車を待つのはごめんだと、回転寿司屋に入り、時間をつぶすことにした。

11時過ぎに再び駅に行くと、各駅停車の電車が動き始めたという。ただし駅の入り口正面から並んでほしいと警察官が規制に立っていた。入り口正面に行くのを待ちかねていた人が、初もうでのときの人出のように道路をはみ出んばかりにしかし整然と並んでいた。階段を上がった向こうにも人が溢れている。入り口が一杯になっているため、電車から降りてくる客は、警察官が横から出るように交通整理していた。

電車が、10分間隔ぐらいに着くたびに、少しづつ前に進む。階段を上も人が並んでいた。並んでいたのは1万人を超していたか？ようやく改札に入ったのは、12時ごろだった。動いているのは各駅停車だけと放送で流れていたが、急行も走り、車両は普通の10両編成より数両長い列車での運行であった。

家に帰ったのは、1時を過ぎていた。TVを見ると都内の各所で帰宅できなかった「帰宅難民」対策で公共施設や大学などが、宿泊できるようにしていると流していた。

当日国分寺にいた清瀬の友人は、バスと徒歩で清瀬に帰り、立川にいた小平に住む知り合いは、JRが動かなくとも私鉄は動いていると私鉄ルートで帰るつもりで、京王線で府中に出ってしまった。最初の判断が間違ってしまう、府中から新宿というコースで帰ったため、小平への帰宅は、午前3時となってしまったという。最初の段階で立川から歩いて帰っていればよかったということだった。